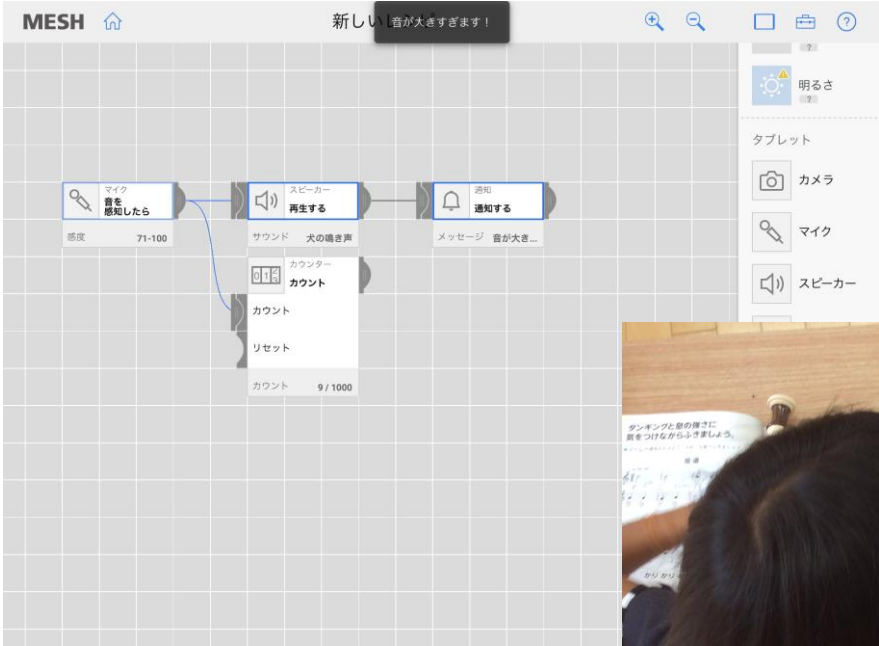



小学校プログラミング教育の実施レポート

| | |
|--------------------------------------|---|
| 学習活動名 | 「ちょうどよい音量は？」 |
| 学年 | 第3学年 C分類 |
| 目標 | ○自分が演奏するリコーダーの音量に関心を持ち、適正な音量について考えている。 ○音量がオーバーしたら警告するプログラムの仕組みを考え、実際に使ってみる。 |
| 教材タイプ | ビジュアル言語 |
| 使用教材 | MESH (タグなし) |
| 環境 | 児童25名で25台のiPad端末を使用 |
| 都道府県 | 大分県 |
| 実施校 | 臼杵市立福良ヶ丘小学校 |
| 学習活動の概要・児童の様子(プログラミングの活動を中心に記載ください。) | <p>【学習活動の概要について】まず、自分の演奏するリコーダーの音量をMESHのマイクブロックで計測した。感度0～100までのゲージがリコーダーの音量によって変化するので、大きすぎる場合にそれを知らせるプログラムを作ることを知らせ、作成例をデモした後、それぞれ自分でカスタムして作った。</p>   <p>【活動の様子】3年生の音楽の授業でリコーダーを扱った際、演奏の音量が大きすぎる児童が多かった。iPadとプログラミングを活用して、自分自身の演奏の音量に意識を向けってもらうために行った活動である。大きな音を出していた児童も次第に適正な音量を探りはじめ、自分が設定した音量以内で演奏しようとする姿が見られた。また、プログラム作りを工夫して、設定以上の音量を感知すると音楽を鳴らしたり、写真を撮ったりするようにカスタムした児童も複数いた。</p> |
| 成果と課題 | 自分の演奏の音量を意識して活動ができた。リコーダーの演奏の技能として適正な音量とプログラムでの適正な音量の設定をどのようにするかと学習のねらいの設定には改善の余地がある。 |